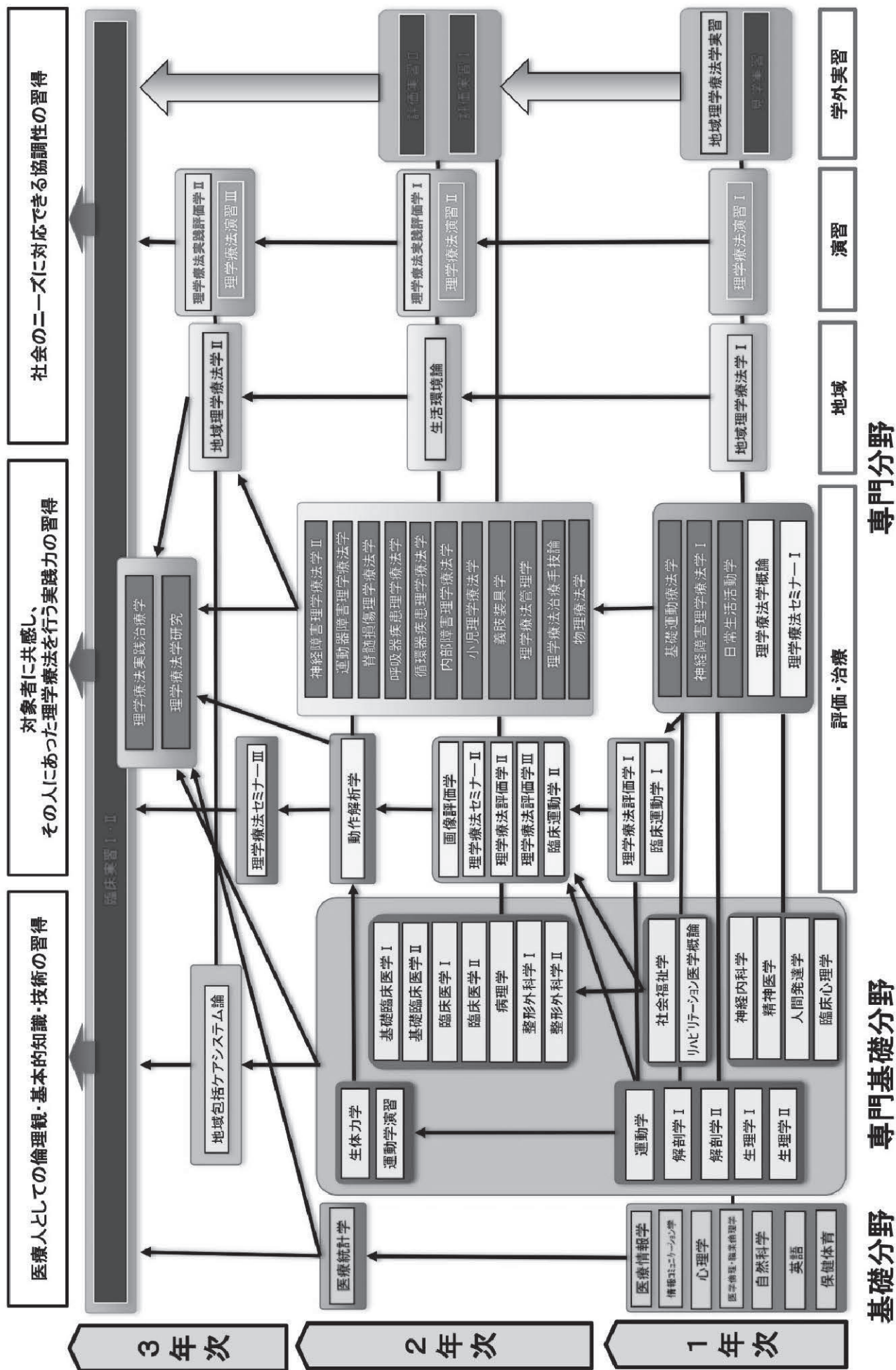


理学療法学科 カリキュラム
〈1 年次〉

分野	教 育 内 容	科 目 名	1 年次		2 年次		3 年次		単位数	時間数	備 考	厚生労働 省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎 分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心 理 学	2	30					2	30		14
		自 然 科 学	2	30					2	30	生物学系	
		英 語	2	30					2	30		
		保 健 体 育	1	30					1	30	講義・実技	
		情報コミュニケーション学	1	30					1	30		
		医学倫理・職業倫理学	2	30					2	30		
		医 療 情 報 学	2	30					2	30		
		医 療 統 計 学			2	30			2	30		
	基 礎 分 野 小 計		12	210	2	30	0	0	14	240		14
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解 剖 学 I	4	60					4	60		12
		解 剖 学 II	4	60					4	60		
		生 理 学 I	4	60					4	60		
		生 理 学 II	4	60					4	60		
		運 動 学	2	30					2	30		
		運 動 学 演 習			1	30			1	30		
		人 間 発 達 学	2	30					2	30		
		生 体 力 学			1	15			1	15		
	疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	病 理 学			2	30			2	30		14
		神 経 内 科 学	2	30					2	30		
		精 神 医 学	2	30					2	30		
		臨 床 心 理 学	2	30					2	30		
		基 礎 臨 床 医 学 I			2	30			2	30	栄養・救急 救命・予防	
		基 礎 臨 床 医 学 II			2	30			2	30	薬学・画像	
		臨 床 医 学 I			2	30			2	30	内科学・小児 科学	
		臨 床 医 学 II			2	30			2	30	一般臨床医学	
		整 形 外 科 学 I			2	30			2	30		
		整 形 外 科 学 II			2	30			2	30		
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30					2	30		4
		社 会 福 祉 学	1	15					1	15		
		地域包括ケアシステム論					2	30	2	30	自立支援・就労支援・ 多職種連携含む	
	専門基礎分野 小 計		29	435	16	255	2	30	47	720		30

分野	教 育 内 容	科 目 名	1 年次		2 年次		3 年次		単位数	時間数	備 考	厚生労働 省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
専 門 分 野	基礎理学療法学	理 学 療 法 学 概 論	2	60					2	60		6
		理学療法セミナーⅠ	1	15					1	15		
		理学療法セミナーⅡ			1	15			1	15		
		理学療法セミナーⅢ					4	60	4	60		
		臨 床 運 動 学 Ⅰ	1	30					1	30		
		臨 床 運 動 学 Ⅱ			1	30			1	30		
	理学療法管理学	理 学 療 法 管 理 学			2	60			2	60	職場管理、理学療法教育及び職業倫理含む	2
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	30					1	30		6
		理学療法評価学Ⅱ			1	30			1	30		
		理学療法評価学Ⅲ			1	30			1	30		
		動 作 解 析 学			1	30			1	30		
		画 像 評 価 学			1	30			1	30		
		理学療法実践評価学Ⅰ			1	30			1	30		
		理学療法実践評価学Ⅱ					1	30	1	30		
	理学療法治療学	基 礎 運 動 療 法 学	1	30					1	30		20
		神経障害理学療法学Ⅰ	1	30					1	30		
		神経障害理学療法学Ⅱ			1	30			1	30		
		小 児 理 学 療 法 学			1	30			1	30		
		運動器障害理学療法学			2	60			2	60		
		呼吸器疾患理学療法学			1	30			1	30	喀痰等の吸引含む	
		循環器疾患理学療法学			1	30			1	30		
		脊髄損傷理学療法学			1	30			1	30		
		内部障害理学療法学			1	30			1	30		
		理学療法治療手技論					1	30	1	30		
		物 理 療 法 学			1	30			1	30		
		義 肢 装 具 学			2	60			2	60		
		日 常 生 活 活 動 学	1	30					1	30		
		理 学 療 法 学 研 究			2	30			2	30		
		理 学 療 法 演 習 Ⅰ	1	30					1	30		
		理 学 療 法 演 習 Ⅱ			1	30			1	30		
		理 学 療 法 演 習 Ⅲ					4	120	4	120		
		理学療法実践治療学					2	60	2	60		
	地域理学療法学	生 活 環 境 論			1	30			1	30		3
		地域理学療法学Ⅰ	1	30					1	30		
		地域理学療法学Ⅱ					1	30	1	30		
	臨 床 実 習	見 学 実 習	1	40					1	40		20
		評 価 実 習 Ⅰ			1	40			1	40		
		評 価 実 習 Ⅱ			3	120			3	120		
		地域理学療法学実習	1	40					1	40		
		臨 床 実 習 Ⅰ					8	320	8	320		
		臨 床 実 習 Ⅱ					8	320	8	320		
	専 門 分 野	小 計	12	365	28	835	29	970	69	2170		57
		総 計	53	1010	46	1120	31	1000	130	3130		101

理学療法学科カリキュラムツリー



学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	心 理 学
代 表 講 師	林 田 秀 樹（所属：くまもと悠心病院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	現代心理学の概要について基礎から学び、日常を心理学的な視点から考察する。 また、対人援助職として基本となる、人間理解を深める。				
到 達 目 標	心理学的知識を身に付け、今後の学習や仕事、社会生活に役立てられるようになる。				
成績評価の方法と基準	講義ごとのレポート（配点 30%）と筆記試験（同 70%）にて合計 60%以上の成績を修めること				
テキスト・教材等	テキスト『心理学入門こころを科学する 10 のアプローチ』、プリント、パワーポイント				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	心理学史／オリエンテーション、心理学とは何か、心理学の歴史と役割				
第 2 回	学習心理学／本能行動、古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習				
第 3 回	生理心理学 (1) ／脳の構造とはたらき、各神経系の構造と機能				
第 4 回	生理心理学 (2) ／中枢神経と末梢神経の活動、感情と情動				
第 5 回	知覚心理学／知覚と感覚、五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）について				
第 6 回	認知心理学／知能、認知、注意、記憶、言語について				
第 7 回	社会心理学／自己と他者や集団とのかかわり、社会的影響				
第 8 回	パーソナリティ心理学 (1) ／パーソナリティとは、パーソナリティテスト（エゴグラム）の演習				
第 9 回	パーソナリティ心理学 (2) ／パーソナリティの分類、形成と発達				
第10回	臨床心理学 (1) ／臨床心理学とは、心理査定、心理療法各論				
第11回	臨床心理学 (2) ／意識と無意識、防衛機制、欲求と欲求不満				
第12回	臨床心理学 (3) ／ストレスと疾病、こころの病について				
第13回	発達心理学／発達段階と発達課題				
第14回	神経心理学／心と脳、高次脳機能障害、その他の心理学的知見				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	自然科学
代 表 講 師	佐 藤 栄 治 (元 熊本大学理学部)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	物事には歴史があり、思考のためのデータとして欠かすことができない。 自然科学の一分野の生物学を通して、生物学的基本知識、論理的思考力（ものの考え方）とは何かを 考えていく。				
到 達 目 標	人間の体を構成する細胞の説明や、神経や筋肉の構造や機能を筋道だてて説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『医療・看護系のための生物学』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	生命（いのち）の大切さを、地球誕生から生命誕生と進化の歴史を紐解きながら学ぶ				
第 2 回	生物分類学から始まる医学（解剖学・生理学・生化学）や化学など自然科学全般がどう関連しているか？ それぞれの関連を歴史のなかで学ぶ				
第 3 回	生体構成成分Ⅰ 炭水化物（分類と性質）とは何か				
第 4 回	生体構成成分Ⅱ 脂質（分類と性質）とは何か				
第 5 回	生体構成成分Ⅲ タンパク質（アミノ酸の分類と性質）とは何か				
第 6 回	生物の基本単位である細胞の構造と機能について学ぶ（細胞膜、核、小胞体、リボソーム、ゴルジ体）				
第 7 回	生物の基本単位である細胞の構造と機能について学ぶ（リソソーム、ミトコンドリア、葉緑体、細胞骨格、 細胞外マトリックス）				
第 8 回	細胞膜の構造と機能、細胞膜に存在する受容体とイオンチャネルとは何か				
第 9 回	タンパク質の構造と機能、酵素の分類と性質はどのようなものか				
第10回	遺伝子（核酸・DNA）の構造と機能、染色体とDNA複製を学ぶ				
第11回	DNA転写機構（DNAからRNA）、翻訳機構（タンパク質合成）を学ぶ				
第12回	神経の構造と機能Ⅰ（静止膜電位の発生機構を学ぶ）				
第13回	神経の構造と機能Ⅱ（活動電位の発生機構を学ぶ）				
第14回	筋肉の分類と筋収縮機構、筋肉はどのようにして収縮するのか				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 1 年次		教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解		科目名	英 語
代 表 講 師	木 下 幸 恵						
授 業 方 法	講 義		単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）	
授 業 概 要	専門医療用語の活用に必要な基礎学力としての英語読解力をテキスト演習を通じて向上させ、論理的思考の向上を目指す。予習を通じて不明点を明らかにした上で授業を通じてそこを解明していくこと。						
到 達 目 標	単に授業で習ったことを覚えるのではなく、初見の英語を辞書や参考書等を活用して自分なりの理解につなげられるようになることを目標とする。						
成績評価の方法と基準		筆記試験 100%					
テキスト・教材等		『Read on, Think on!』					
回 数	授 業 内 容						
第 1 回	Introduction Unit 1	テキスト解説 A New Way to Wake Up					
第 2 回	Unit 2	Frame Styles For Glasses					
第 3 回	Unit 3	Pizza Party Etiquette					
第 4 回	Unit 4	Why Do Young People Love Starbucks?					
第 5 回	Unit 5	Gift Certificates in Convenience Stores					
第 6 回	Unit 6	Gift Exchange Party—What Present Would You Buy?					
第 7 回	Unit 7	Is Learning How to Drive a Manual Car Necessary?					
第 8 回	Unit 8	Eating While Walking					
第 9 回	Unit 9	How Do You Keep Your Keys?					
第10回	Unit 10	Tablet-Based Lessons Versus Paper Textbook-Based Lessons					
第11回	Unit 11	Where Do You Want To Go?					
第12回	Unit 12	Is Shaking Hands Finished?					
第13回	Unit 13	Unusual Souvenirs That Foreign Visitors Buy in Japan					
第14回	Unit 14	Young People Rarely Use Email					
第15回	試 験						

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	保健体育
代 表 講 師	大 潮 八 郎				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	運動が生理機能に及ぼす影響を医科学的に学習する。				
到 達 目 標	生涯スポーツを意識し、自己体力の保持増進のできる運動処方作成ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	試験（70%）・平常点：目標の到達度（20%）・参加意欲（10%）				
テキスト・教材等	必要に応じて資料配布				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	運動と生理機能・健康 体力の構成 行動体力 防衛体力 精神力				
第 2 回	運動と表現機能（運動器）・コントロール機能（神経系）				
第 3 回	運動と持続機能（呼吸循環器）				
第 4 回	運動とエネルギー源・ATP 供給過程 トレーニングの原理と原則 種類と効果				
第 5 回	実技：バドミントン① 基礎知識 基礎技術練習（ストローク サーブ）				
第 6 回	〃 ② ダブルスゲームルール解説				
第 7 回	〃 ③ ダブルスゲームルール確認				
第 8 回	〃 ④ ダブルスゲームリーグ戦開始				
第 9 回	〃 ⑤ 〃				
第10回	〃 ⑥ 〃				
第11回	〃 ⑦ 〃				
第12回	〃 ⑧ 〃				
第13回	ミニソフトバレーボール①				
第14回	〃 ②				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	情報コミュニケーション学
代 表 講 師	福 島 芳 子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として病院に勤務していた教員が、患者の治療の経験を活かし、理学療法における必要なコミュニケーションの図り方（患者・家族・多職種に対して）について、講義を行う。				
授 業 概 要	理学療法士として、治療場面において患者や家族、関連職種に対して、必要不可欠であるコミュニケーションの図り方や手法について、演習を交えて学ぶ。				
到 達 目 標	1. 社会人としてのマナーや接遇について理解する。 2. 自分の考えや意見を率直に表現して、より良い人間関係を形成することのできるコミュニケーション技法を習得する。 3. 医療現場におけるコミュニケーションの特徴について理解する。				
成績評価の方法と基準	課題レポート（100%）				
テキスト・教材等	『PT・OT・STのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド 第3版』・サービス接遇検定2級、3級				
回 数	授 業 内 容				
第1回	オリエンテーション ・自己紹介及びコミュニケーション力について理解する。				
第2回	コミュニケーションツール ・SNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）取り扱いについて理解する。				
第3回	接遇・マナー① ・サービス接遇における演習				
第4回	接遇・マナー② ・サービス接遇における演習				
第5回	接遇・マナー③ ・サービス接遇における演習				
第6回	接遇・マナー④ ・身だしなみやマナーについて理解する。				
第7回	観察 ・相手を知るための観察のしかた				
第8回	聴き方 ・よい聞き手になるための聴き方				
第9回	伝え方 ・伝わる伝え方				
第10回	医療面接 ・患者との接し方について理解する。				
第11回	臨床場面でのコミュニケーションスキル① ・理学療法場面における患者対応について理解する。				
第12回	臨床場面でのコミュニケーションスキル② ・理学療法場面におけるスタッフ対応について理解する。				
第13回	臨床場面でのコミュニケーションスキル③ ・多職種との連携について理解する。				
第14回	実習先へのお礼状の書き方				
第15回	総括 ・これまで学んできたことを振り返り、コミュニケーション能力について再確認する。				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	医学倫理・職業倫理学
代 表 講 師	山 野 克 明 (所属：熊本保健科学大学)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	医学倫理および職業倫理の基礎について、理学療法士に関係する事例を通して講義と演習を進めていきます。				
到 達 目 標	1. 理学療法士を取り巻く医療倫理の問題ならびに臨床倫理の問題について知る。 2. 倫理的問題を解決するための原則を理解する。 3. 専門職とは何かについて説明できる。 4. 理学療法士の職業規範（倫理綱領および職業倫理指針を含む）について説明できる。				
成績評価の方法と基準	定期試験（100％）				
テキスト・教材等	山野克明編著『職業倫理を考える』 その他、必要に応じ授業資料等を配布する				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	医学倫理・職業倫理学とは何か				
第 2 回	自己決定権について考える				
第 3 回	専門職と患者との人間関係を考える				
第 4 回	医療福祉職の倫理綱領と職業倫理指針（ガイドライン）について考える				
第 5 回	理学療法士の職業倫理				
第 6 回	作業療法士の職業倫理				
第 7 回	医療資源の配分・トリアージの倫理				
第 8 回	障がいと生命の倫理				
第 9 回	生殖技術・遺伝性疾患における倫理				
第10回	認知症・精神医療における倫理				
第11回	アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）				
第12回	摂食嚥下障害の倫理				
第13回	脳死・臓器移植と倫理				
第14回	専門職としてどのように振る舞えばよいか考える（専門職の倫理教育）				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	医療情報学
代 表 講 師	池 田 耕 治 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	医療情報学は、医療現場で生まれる膨大な情報を「どのように評価し、取捨選択し、判断に結びつけるか」を扱う学問である。 本講義では、医療情報の基礎、データサイエンス、医療情報システム、デジタルヘルス、倫理・安全・研究の 5 つの領域を体系的に学ぶ。1 年生でも理解できるレベルから始め、医療者として必要な情報を読む力・判断する力・未来を考える力を育てる。				
到 達 目 標	学生は、医療情報の基本的な種類と役割を理解した上で、それらの情報が臨床判断にどのような影響を与えるかを説明できるようになる。また、医療データの質・偏り・限界を評価し、可視化や基礎統計を用いて「その情報をどこまで信頼できるか」を判断する力を身につける。 さらに、AI の基本概念と限界、医療情報システムの構造を理解することで、医療現場における情報の流れを把握し、臨床推論の前提となる情報整理・根拠づけができるようになる。加えて、eHealth・遠隔医療などのデジタルヘルスを通して、情報が増えることによる判断の難しさと責任について考察できるようになる。 最後に、医療データ倫理および AI 倫理を理解し、医療情報を用いた簡単な研究計画を立案する基礎的能力を養う。				
成績評価の方法と基準	「理解 × 表現 × 構造化」生理学を語れる身体になるための評価 1. 課題レポート (50%) 毎回のテーマ毎に課題を設定し、レポートとして「熊リハ Moodle」に提出する。(プレテストの予習) 2. プレ及びポストテスト (50%) 毎回の講義内容を確認する小テスト (10 問)。知識の定着を確認する。 3. リフレクション・ジャーナル (30%) 毎回の講義後に理解した内容等を「振り返る」時間をもち、自己確認する。 ◆本科目では、単なる知識の習得ではなく、医療情報をもとに理由づけて説明し、判断できる力を評価する。				
テキスト・教材等	授業ごとに資料 (講義資料)、授業中のワーク用 (ワークシート) を配布します。 ◆資料は基本的に「熊リハ Moodle」にて配布します。必要なら印刷して持参してください。				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	第 1 ユニット：医療情報学の基礎 (1～3 回) 臨床推論の前提となる「情報の信頼性」を評価する視点を身につける。				
第 2 回	1-1：医療情報とは何か ①医療情報の種類を説明できる、②医療情報が医療の質に与える影響を述べられる、③医療 DX の基本概念を説明できる				
第 3 回	1-2：医療データの質とバイアス ①データの欠損・偏りを指摘できる、②バイアスが臨床判断に与える影響を説明できる、③データの信頼性を評価できる 1-3：医療情報と医療安全 ①情報共有の重要性を説明できる、②医療安全に関わる情報エラーを例示できる、③システムが安全に寄与する仕組みを説明できる				
第 4 回	第 2 ユニット：医療データサイエンス基礎 (4～6 回) 収集した情報を解釈し、重みづけするための基礎的なデータリテラシーを学ぶ。				
第 5 回	2-1：医療データの可視化 ①基本的なグラフを作成できる、②データの傾向を読み取れる、③可視化の良し悪しを判断できる 2-2：基礎統計と医療データ ①平均・分散・相関を計算できる、②医療研究の簡単な統計結果を解釈できる、③統計の限界を説明できる				
第 6 回	2-3：AI の基礎 (分類・予測・NLP) ① AI の基本概念を説明できる、②医療 AI の活用例と限界を述べられる、③ AI の結果を鵜呑みにしない判断ができる				
第 7 回	第 3 ユニット：医療情報システム (7～9 回) 臨床現場において情報がどのように生成・共有・制約されているかを理解する。				
第 8 回	3-1：電子カルテの構造 ①電子カルテの基本構造を説明できる、②記録項目の意味を理解できる、③医療現場の情報フローを図示できる 3-2：医療情報標準 (HL7・FHIR) ①医療情報標準の役割を説明できる、② HL7 と FHIR の違いを述べられる、③標準化が医療連携に必要な理由を説明できる				
第 9 回	3-3：医療機関の情報管理 ①情報管理の基本原則を説明できる、②セキュリティリスクを例示できる、③チーム医療における情報共有の重要性を説明できる				

回 数	授 業 内 容
第10回	第4ユニット：デジタルヘルスと未来（10～12回）情報が拡張されたときに生じる新たな判断課題を考察する。
第11回	4-1：eHealth（アプリ・ウェアラブル） ① eHealthの種類と特徴を説明できる、②ウェアラブルデータの活用例を述べられる、③デジタルヘルスの利点と課題を整理できる
第12回	4-2：遠隔医療・テレリハ ①遠隔医療の仕組みを説明できる、②テレリハのエビデンスを理解できる、③地域医療における意義を説明できる 4-3：UXと患者体験 ①UXの基本概念を説明できる、②医療サービスの使いやすさを評価できる、③患者体験を改善する視点を述べられる
第13回	第5ユニット：倫理・安全・研究（13～15回）情報を用いて判断する医療者の責任と倫理について理解を深める。
第14回	5-1：医療データ倫理 ①プライバシー保護の基本を説明できる、②データ利用の同意の重要性を述べられる、③倫理的問題を事例から考察できる 5-2：AI倫理と医療安全 ①AIのバイアス問題を説明できる、②医療AIの透明性の必要性を述べられる、③安全なAI活用条件を説明できる
第15回	5-3：医療情報を使った研究の基礎 ①研究の基本構造（目的・方法・結果）を説明できる、②簡単な研究テーマを設定できる、③医療データを使ったミニ研究の計画を立てる

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解 剖 学 I
代 表 講 師	高 田 理恵子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	4	学期・回数	前期：30 回（60 時間）
授 業 概 要	医学を学ぶ上で基本である解剖学、その中で運動器に関して学習する。運動・動作について専門的知識を必要とする理学療法士には重要な講座である。学習しなければならない量も多い為、予習や繰り返しの復習などテキストを用いながらの家庭での学習も重要である。				
到 達 目 標	運動器（骨・関節・筋）とそれを支配する神経について名称を正しく記憶・理解し、説明することができる。身体運動に関わる身体各部分の構造や機能について理解し、理学療法評価を実施し、理学療法プログラムを作成する上で必要な基礎知識を身につける。 [個別的行動目標] 1. 身体運動に関わる身体各部分の構造や機能について理解し、説明することができる。 2. 身体運動の解剖学的特性を理解し、運動を科学的に説明することができる。				
成績評価の方法と基準	高田・福島・明瀬担当分：筆記試験 70%、形成的評価 30%（講義前後の試験） 池田担当分：形成的評価 100%（各講義前後のテストおよびワーク課題で評価）				
テキスト・教材等	『標準理学療法学・作業療法学[専門基礎分野]解剖学 第6版』、『プロメテウス解剖学アトラス[解剖学総論 / 運動器]』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	総論 解剖学用語と人体の区分				高田理恵子
第 2 回	骨の分類・骨の構造・血管・神経の分布				〃
第 3 回	上肢骨（上肢帯骨・自由上肢・手）				〃
第 4 回	上肢骨（上肢帯骨・自由上肢・手）				〃
第 5 回	下肢骨（下肢帯骨・寛骨・骨盤・自由下肢・足）				〃
第 6 回	下肢骨（下肢帯骨・寛骨・骨盤・自由下肢・足）				〃
第 7 回	上肢骨・下肢骨のまとめ				〃
第 8 回	頭蓋（顔面頭蓋・脳頭蓋・新生児頭蓋）				〃
第 9 回	胸郭の構成と機能・肋骨・肋軟骨・胸骨				〃
第10回	脊柱（基本構造・頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨）				〃
第11回	脊柱（基本構造・頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨）				〃
第12回	頭蓋骨・胸郭・脊柱のまとめ				〃
第13回	関節・靭帯（上肢帯・自由上肢・手）				〃
第14回	関節・靭帯（脊柱・肋骨・胸骨・下肢帯・自由下肢・足部）				〃
第15回	まとめ・確認試験				
第16回	筋の種類・筋の補助装置・骨格筋の構造・顔面筋				福島芳子
第17回	咀嚼筋・舌筋・咽頭・喉頭				〃
第18回	頸部・体幹の筋				明瀬敬二
第19回	上肢帯から上肢の筋・前腕の筋・手の筋				福島芳子
第20回	上肢帯から上肢の筋・前腕の筋・手の筋				〃
第21回	下肢帯の筋・下肢の筋・股関節・大腿部・下腿部・足部				〃
第22回	下肢帯の筋・下肢の筋・股関節・大腿部・下腿部・足部				〃
第23回	腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢と支配される筋				〃

回 数	授 業 内 容	担当講師
第24回	中枢神経系「情報を生み出す王国」 第1コマ：脳の地図 - 「指揮官たちの住む城」：ストーリーの視点：脳は王国の機能ごとに区分された司令塔	池田幸広
第25回	①大脳皮質の領域（前頭葉・頭頂葉・側頭葉・後頭葉）②大脳基底核、小脳、脳幹（生命維持の司令塔） ③神経回路の「階層性」（高次機能と低次機能の分担）	
第26回	第2コマ：脊髄の道 - 「情報のハイウェイ」：ストーリーの視点：脊髄は運動・感覚の情報が行き交う大動脈（高速道路） ①錐体路と錐体外路、②反射と抑制（脊髄反射と随意運動）、③皮質脊髄路と感覚伝導路の流れ	
第27回	末梢神経系「神経の枝が広がる世界」 第3コマ：「動きの使者」 - 脳神経と脊髄神経：脳神経は王国の「特使」、脊髄神経は「都市と村をつなぐネットワーク」	池田幸広
第28回	①12対の脳神経、②皮膚分節（デルマトーム）と筋分節（ミオトーム）、③臨床的意義（脳神経麻痺、神経根症）	
第29回	第4コマ：「感覚の旅路」 - 体性感覚と運動神経の道：感覚のメッセージが中枢に届くまでの道のり ①感覚の分類（体性感覚：表在感覚・深部感覚・複合感覚、特殊感覚、内臓感覚） ②運動と感覚のルート（脊髄神経の働き、脊髄視床路、内側毛帯 - 後索路、脊髄小脳路）	
第30回	試 験	

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解 剖 学 II
代 表 講 師	高 嶋 美 和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	4	学期・回数	前・後期：30 回 (60 時間)
授 業 概 要	解剖学は、単なる名称の暗記ではなく、「生きている人の動き」を理解するための基礎である。自分の体や図譜、臨床画像を活用し、人体がどのような工夫で成り立っているのかを学ぶ。人体構成要素のうち、内臓諸器官の構造とそれらの相互関係について、体系的に学習する。また、受精から始まるヒトの胎生初期の形態形成についても学ぶ。				
到 達 目 標	外からは見ることのできないからだの内部構造を知り、病気に対する理解を深めることができる。				
成績評価の方法と基準	講義中の講義レポートを含む形成的評価 100%				
テキスト・教材等	『標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	【人体の組み立てと基本ルール】 解剖学への招待：PT・OT として人体をどう見るか？（教科書 p. 1-8 第 1 章 解剖学総論） ・解剖学の目的、解剖学的方位、人体の区分について説明できる。				高嶋美和
第 2 回	生命の最小単位：細胞のミクロコスモス（教科書 p. 10-14 第 1 章 解剖学総論） ・細胞の構造、小器官（ミトコンドリア等）の役割について説明できる。				〃
第 3 回	体を守り、支えるシートとクッション（教科書 p. 14-20 第 1 章 解剖学総論） ・上皮組織と支持組織（結合組織）の分類と特徴について説明できる。				〃
第 4 回	【動きを支える骨・関節・筋肉】 筋肉の不思議：力を生み出すエンジン（教科書 p. 147-155 第 4 章 筋系） ・筋組織の種類、骨格筋の肉眼的構造について説明できる。				〃
第 5 回	【命を運ぶパイプライン（循環器・血液）】 循環器系の全体像：体内を巡る物流ネットワーク（教科書 p. 331-333 第 7 章循環器系） ・血管（動脈・静脈・毛細血管）の組織構造と循環の基本について説明する。				〃
第 6 回	心臓：休むことのないパワフルなポンプ（教科書 p. 334-336 第 7 章循環器系） ・心臓の 4 つの部屋の構造と、拍動を作る刺激伝導系について説明できる。				〃
第 7 回	動脈の旅①：上半身への栄養供給路（教科書 p. 337-346 第 7 章循環器系） ・大動脈から頭部、上肢へ至る経路と体表で触れる動脈（血圧測定部位等）について説明できる。				〃
第 8 回	動脈の旅②：下半身への栄養供給路（教科書 p. 337-346 第 7 章循環器系） ・腹大動脈から下肢へ至る経路と、臨床的に重要な触知部位				〃
第 9 回	静脈とリンパ：老廃物の回収システム（教科書 p. 346-350 第 7 章循環器系） ・静脈の逆流防止策（筋ポンプ）と、リンパ管・リンパ節の役割について説明できる。				〃
第10回	血液の正体：体の中のパトロール隊（教科書 p. 19 第 1 章 解剖学総論） ・赤血球、白血球、血小板の種類と、血液を作る造血の仕組みについて説明できる。				〃
第11回	【人体の組み立てと基本ルール】【動きを支える骨・関節・筋肉】【命を運ぶパイプライン（循環器・血液）】 ・総括				〃
第12回	【エネルギーを取り込み、浄化する（消化器・呼吸器・泌尿器）】 消化器系の基本①：食べ物の長い旅の始まり（教科書 p. 371-377 第 9 章 消化器系） ・中空性器官の基本構造と、消化管の組織構造、消化管と消化腺について説明できる。				〃
第13回	消化器系の基本②：食べ物の長い旅の始まり（教科書 p. 371-377 第 9 章 消化器系） ・口腔・咽頭の役割（嚥下の基礎）について説明できる。				〃
第14回	胃と食道：たくましい消化の袋（教科書 p. 377-379 第 9 章 消化器系） ・食道の狭窄部と、胃の粘膜・筋層について説明できる。				〃
第15回	小腸と大腸：栄養吸収と水分のリサイクル（教科書 p. 379-381 第 9 章 消化器系） ・十二指腸、空腸、回腸、および結腸の構造的特徴について説明できる。				〃

回 数	授 業 内 容	担当講師
第16回	肝臓・胆のう・膵臓：巨大な化学工場（教科書 p.382-385 第9章 消化器系） ・門脈系を通じた代謝の仕組みと、各腺器官の役割について説明できる。	高嶋美和
第17回	呼吸器系①：空気の通りの工夫（教科書 p.359-365 第8章 呼吸器系） ・鼻腔、咽頭、喉頭、気管、声を出す仕組み（発声）について説明できる。	〃
第18回	呼吸器系②：ガス交換の最前線（教科書 p.365-368 第8章 呼吸器系） ・肺の構造、胸膜、縦隔、呼吸運動を支える横隔膜について理解できる。	〃
第19回	呼吸器系③：その他（教科書 p.365-368 第8章 呼吸器系） ・呼吸器まとめ	〃
第20回	泌尿器系①：体内の浄化システム（教科書 p.389-396 第10章 泌尿器系） ・腎臓のろ過装置（ネフロン）について説明できる。	〃
第21回	泌尿器系②：体内の浄化システム（教科書 p.389-396 第10章 泌尿器系） ・尿の通り道（膀胱・尿道）について説明できる。	〃
第22回	【エネルギーを取り込み、浄化する（消化器・呼吸器・泌尿器）】 ・総括	〃
第23回	【生命の連続性】 生殖系：生命をつなぐ仕組み（教科書 p.21-22 第1章 解剖学総論，p.397-407 第10章 泌尿器・生殖系） ・男女の生殖器の構造と、受精・着床について理解する。	〃
第24回	生命の始まり：発生学から見た体のストーリー （教科書 p.21-22 第1章 解剖学総論，p.397-407 第10章 泌尿器・生殖系） ・胚子期から胎児期への変化と、各器官が形成されるプロセスについて説明できる。	〃
第25回	【司令塔とセンサー（神経・感覚器・内分泌）】 神経系の地図：体全体を統制する仕組み（教科書 p.225-230 第5章 神経系） ・神経系の区分（中枢・末梢）と、情報を伝えるニューロンについて説明できる。	〃
第26回	感覚器①：世界を感じるセンサー（視覚と聴覚）（教科書 p.318-329 第5章 感覚器系） ・眼のレンズ構造と、耳（外耳・中耳・内耳）による音の伝達について説明できる。	〃
第27回	感覚器②：皮膚（体と外の世界の境界線）（教科書 p.315-318 第5章 感覚器系） ・皮膚の3層構造と、触覚・温度などを感じる様々なセンサーについて説明できる。	〃
第28回	内分泌系：微量で体を操るメッセンジャー（教科書 p.409-415 第11章 内分泌系） ・下垂体、甲状腺、副腎などの主要な内分泌腺とホルモンを列挙できる。	〃
第29回	自律神経系 「影の支配者」－ 交感神経と副交感神経：無意識に働くシステム、交感神経は「戦士」、副交感神経は「賢者」 ①自律神経系の基本構造（交感神経節・副交感神経節）、②心拍・血圧・消化の調整 ③戦う or 逃げる（闘争・逃走反応）vs 休息と回復（リラックス）	池田幸広
第30回	「心と身体をつなぐ神経」－ 自律神経とホルモンの相互作用：ストレスが神経・ホルモン系に与える影響 ①自律神経と内分泌（視床下部－下垂体－副腎系）、②ストレスが自律神経系と免疫に与える影響	池田幸広

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生 理 学 I
代 表 講 師	池 田 耕 治 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	4	学期・回数	前期：30 回 (60 時間)
授 業 概 要	「身体は、あなたが生まれた瞬間から語り続ける物語である。」 この授業では、身体を 宇宙・大地・光の道・王国 として捉え、その内部で起きている生理現象を詩的 × 科学的 × 構造的 に学ぶ。(第1大陸：身体への入り口と細胞 第2大陸：循環の大地 第3大陸：呼吸の森 第4大陸：神経と筋の光の道 第5大陸：内分泌・代謝・腎・体温の王国) 学習者は、細胞 → 組織 → 器官 → 器官系 → 身体全体という内部への降下と全体への上昇を繰り返しながら、身体の働きを深く理解していく。				
到 達 目 標	「身体の働きを構造 × 物語 × 科学として理解できるようになる。」 1. 生理学の基礎概念を理解する 2. 各器官系の働きを説明できる 3. 生理現象をつながりとして理解する 4. 日常や臨床の身体変化を生理学的に説明できる 5. 身体内部の物語として生理学を語れるようになる				
成績評価の方法と基準	「理解 × 表現 × 構造化」生理学を語れる身体になるための評価 1. 課題レポート (30%) 毎回のテーマ毎に課題を設定し、レポートとして「熊リハMoodle」に提出する。(プレテストの予習) 2. プレ及びポストテスト (40%) 毎回の講義内容を確認する小テスト (10 問)。知識の定着を確認する。 3. リフレクション・ジャーナル (30%) 毎回の講義後に理解した内容等を「振り返る」時間を持ち、自己確認する。 ◆本科目では、単なる知識の習得ではなく、生理学の知識をもとに理由づけて説明し、判断できる力を評価する。				
テキスト・教材等	授業ごとに資料 (講義資料)、授業中のワーク用 (ワークシート) を配布します。 ◆資料は基本的に「熊リハMoodle」にて配布します。必要なら印刷して持参してください。				
回 数	授 業 内 容				
第1回	第1大陸：身体への入り口と細胞 – Gateways & The First Storyteller (1～4回) 「世界が身体に触れる場所。その奥で、細胞という最小の語り手が静かに働いている。」 「世界が身体に触れる場所がある。口は世界を迎え入れ、皮膚は境界をつくり、目・耳・鼻は光と音と香りを運ぶ。				
第2回	しかし、そのすべての奥で、ひとつの小さな存在が静かに働いている。				
第3回	一細胞。身体という大地をつくり、宇宙を動かし続ける最初の語り手。 旅は、この 最小の物語 から始まる。」				
第4回	1 回：身体への入り口 (口・皮膚・感覚 → 細胞への降下) 2 回：細胞の構造と機能 (細胞膜・核・ミトコンドリア) 3 回：細胞内の旅 (代謝・ATP・酵素) 4 回：細胞同士の会話 (シグナル伝達・受容体) → ここで身体という大地の最小単位を理解する。				
第5回	第2大陸：循環の大地 – The River of Blood (5～10回) 「血液は旅人。心臓は太鼓。血管は果てしない川。」				
第6回	「身体の内部には、果てしない川が流れている。				
第7回	血液は旅人として酸素を運び、心臓は太鼓のようにリズムを刻み、血管は大地を巡る道となる。微小循環という小さな村々を通り、体液という海へとつながる。 循環とは、身体を生かす永遠の旅路。」				
第8回	5 回：血液の旅 (赤血球・白血球・血小板)				
第9回	6 回：心臓のリズム (電気活動)				
第10回	7 回：心拍出量という風景				
	8 回：血圧という流れ				
	9 回：微小循環という小さな村				
	10 回：体液バランスという海				
第11回	第3大陸：呼吸の森 – The Forest of Breath (11～15回) 「肺は空気を抱きしめる森。酸素は光の粒。」				
第12回	「肺は空気を抱きしめる森。吸い込んだ空気は枝葉のように広がり、酸素という光の粒が血液と出会う。				
第13回	呼吸は、外界の空気を身体の物語へ変換する儀式。風の流れが変われば、身体のリズムも変わる。 呼吸とは、身体が世界とつながる静かな森。」				
第14回	11 回：呼吸のメカニズム				
	12 回：ガス交換という奇跡				
	13 回：酸素の旅路 (血液との出会い)				
第15回	14 回：呼吸調節という風の流れ				
	15 回：運動と呼吸の変化				

回 数	授 業 内 容
第16回	第4大陸：神経と筋の光の道 - Pathways of Light and Motion (16～22回) 「神経は光の道。筋肉は沈黙のエンジン。」 「神経は身体に張り巡らされた光の道。電気の火花が走り、筋肉という沈黙のエンジンを動かす。 反射は身体の即答であり、自律神経は影の支配者として内部を整える。 感覚は世界の情報を光に変え、運動はその光を身体の動きへ変換する。」
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	第5大陸：内分泌・代謝・腎・体温の王国 - The Kingdoms of Regulation (23～30回) 「身体は、無数の調整の上に成り立つ。ホルモンは手紙。腎臓は選別者。代謝は火。体温は炎のゆらぎ。」 「身体は無数の調整の上に成り立つ王国。 ホルモンは見えない手紙として器官をつなぎ、代謝は火として身体を燃やし、腎臓は静かな選別者として内部を清める。 体温は炎のゆらぎであり、ストレスは王国全体の風向きを変える。 調整とは、身体の秩序を守る静かな政治。」
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生 理 学 II
代 表 講 師	池 田 耕 治 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 池 田 幸 広 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	4	学期・回数	後期：30 回 (60 時間)
授 業 概 要	本講義は、生理学 I で得た知識を土台に、身体機能の理解をより立体的・統合的に捉え直し、その解像度を高めることを目指す。演習を通して、知識を知恵へと昇華させる力を養う。				
到 達 目 標	身体の各器官・組織の働きを説明することができる。 理学療法士国家試験問題に対応した知恵を身につける。				
成績評価の方法と基準	課題レポート 30% プレ・ポストテスト 40% 演習成果物 30% ※演習への取り組みも評価対象となります。				
テキスト・教材等	『Q シリーズ 新生理学』 授業ごとに資料 (講義資料)、授業中のワーク用 (ワークシート) を配布します。 ◆資料は基本的に「熊リハ Moodle」にて配布します。必要なら印刷して持参してください。				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	細胞の構造と機能 細胞の基本構造と細胞内小器官の機能を説明できる。 タンパク質の合成を説明できる。 ミトコンドリアにおける ATP 産生過程を説明できる。				池田耕治
第 2 回					池田幸広
第 3 回	細胞の興奮と伝導 静止膜電位の成り立ちを説明できる。 活動電位と不応期を説明できる。 伝導の法則を把握している。 神経線維の種類と各伝導速度を把握している。				池田耕治
第 4 回					池田幸広
第 5 回	神経と筋① 筋の分類と特徴を把握している。 骨格筋の収縮機序と収縮様式を説明できる。 筋長と発生張力の完成を説明できる。				池田耕治
第 6 回					池田幸広
第 7 回	神経と筋② 神経筋接合部における興奮の伝達とシナプス前抑制を説明できる。 アルファ / ガンマ運動ニューロンの連関を説明できる。 脊髄反射と抑制機構を説明できる。 運動に関与する伝導路を説明できる。				池田耕治
第 8 回					池田幸広
第 9 回	末梢自律神経系 末梢神経の分類を把握している。 自律神経 (交感神経と副交感神経) の働きを説明できる。 排尿・排便の神経支配を説明できる。				池田耕治
第10回					池田幸広
第11回	感覚 感覚の受容器と伝導路を説明できる。 痛覚の受容器と伝導路 (抑制系を含む) を説明できる。				池田耕治
第12回					池田幸広
第13回	中枢神経系① 大脳皮質の機能局在を把握している。 大脳基底核の構成と機能を説明できる。※ドーパミンと報酬系の関係も含む 小脳の構成と機能を説明できる。				池田耕治
第14回					池田幸広
第15回	中枢神経系② 大機能辺縁系と情動について説明できる。 視床下部の本能行動における機能を説明できる。 記憶と学習について説明できる。				池田耕治
第16回					池田幸広

回 数	授 業 内 容	担当講師
第17回	血液 体液と血液の組成を把握している。 酸塩基平衡について説明できる。 ヘモグロビンと赤血球の関係を説明できる。 身体を守る免疫機能を説明できる。	池田耕治
第18回		池田幸広
第19回	呼吸 呼吸器の構造を把握している。 スパイロメーターで得られる肺機能を説明できる。 肺のガス交換機能を説明できる。 ヘモグロビン解離曲線を説明できる。	池田耕治
第20回		池田幸広
第21回	循環 心臓の構造を把握し、活動電位の伝播を説明できる。 心電図波形を説明できる。 循環の調節を説明できる。	池田耕治
第22回		池田幸広
第23回	腎 ネフロンを把握し、機能を説明できる。 腎による水および電解質・その他の再吸収を説明できる。 体液量と体液浸透圧の調整（レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系）を説明できる。	池田耕治
第24回		池田幸広
第25回	消化・吸収と代謝 消化管の構造を把握し、機能を説明できる。 三大栄養素の消化・吸収を説明できる。 肝臓の機能（特に代謝と胆汁生成）を説明できる。 膵臓の機能（特に膵液とインスリン合成・分泌）を説明できる。	池田耕治
第26回		池田幸広
第27回	エネルギー代謝と体温 生体のエネルギー（ATP・カロリー）について説明できる。 呼吸商の意味を説明できる。 代謝率・基礎代謝量・エネルギー代謝率について説明できる。	池田耕治
第28回		池田幸広
第29回	内分泌 ホルモンの種類を把握し、作用機序を説明できる。 各器官から産生されるホルモンの機能を説明できる。 女性ホルモン・男性ホルモンについて説明できる。	池田耕治
第30回		池田幸広

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	運 動 学
代 表 講 師	明 瀬 敬 二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容 及び授業内容 との関連性	理学療法士として病院に勤務していた教員が、患者の評価・治療等の経験を活かし、理学療法における必要な体の仕組みの基礎知識について講義を行う。				
授 業 概 要	骨、筋、関節、神経など、運動器と感覚器の構造と機能を解剖学的、生理学的に人間の身体運動に関する基礎を学ぶ。				
到 達 目 標	1 運動学の概要について理解する。 2 生体の構造と機能の内、主として運動に関与する項目について概略を理解する。 3 運動のエネルギー消費について理解する。				
成績評価の方法と基準	形成的評価（100％）				
テキスト・教材等	『15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	生体力学における運動学と運動力学について理解して、説明できる。				
第 2 回	運動器の構造と機能について理解して、説明できる。				
第 3 回	肩関節複合体の運動学について理解して、説明できる。				
第 4 回	肘関節・前腕の運動学 について理解して、説明できる。				
第 5 回	手関節・手指の運動学について理解して、説明できる。				
第 6 回	股関節の運動学について理解して、説明できる。				
第 7 回	膝関節の運動学について理解して、説明できる。				
第 8 回	足関節・足部の運動学について理解して、説明できる。				
第 9 回	脊柱・体幹の運動学①について理解して、説明できる。				
第10回	脊柱・体幹の運動学②について理解して、説明できる。				
第11回	顎関節と顔面の運動学について理解して、説明できる。				
第12回	姿勢について理解して、説明できる。				
第13回	歩行①について理解して、説明できる。				
第14回	歩行②について理解して、説明できる。				
第15回	運動学習について理解して、説明できる。				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	人間発達学
代 表 講 師	高 嶋 美 和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	人間発達の諸段階における全般的発達と各ライフステージでの発達課題について学修する。				
到 達 目 標	・受精から出生後の加齢に伴う身体構造や脳神経系機能の発達の概要を理解する。 ・人間発達の諸段階（胎児期～老年期）における運動機能から感覚・認知機能、言語機能、心理・情緒・社会性の発達などを学習し、説明できる。				
成績評価の方法と基準	講義中の講義レポートを含む形成的評価 100%				
テキスト・教材等	『人間発達学 (15 レクチャーリハビリテーションテキスト)』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	人間発達とは (教科書 p. 1-10) ・受精からヒトの死に至るまでの発達の過程や特性を理解する。 ・人間発達学の歴史と発達理論について理解する。				
第 2 回	身体構造の発達 (教科書 p. 11-22) ・人間発達の各段階（胎児期～老年期）における身体構造（体格、姿勢、骨格、筋肉、歯など）やホルモンの発達過程を理解する。				
第 3 回	脳神経系機能の発達と運動発達 (教科書 p. 23-32) ・胎児期～老年期までの神経系でみられる発達過程を理解する。 ・運動発達のメカニズムにおける代表的な理論について理解する。				
第 4 回	運動・移動の発達 (1) 生後 0～3 か月の発達 (教科書 p. 33-42) ・生後 0～3 か月の運動発達と出現する原始反射について理解する。 ・上肢機能や摂食機能の発達について理解する。				
第 5 回	運動・移動の発達 (2) 生後 4～7 か月の発達 (教科書 p. 43-52) ・生後 4～7 か月の運動発達を、姿勢反射、姿勢反応との関連を踏まえて理解する。 ・上肢機能や摂食機能の発達について理解する。				
第 6 回	運動・移動の発達 (3) 生後 8～12 か月の発達 (教科書 p. 53-64) ・生後 8～12 か月の運動・移動の発達について理解する。				
第 7 回	運動・移動の発達 (4) 幼児期の発達 (教科書 p. 65-78) ・歩行獲得～幼児期の粗大運動と上肢機能の発達とその関係性を理解する。 ・幼児期～老年期の基礎体力の変化について理解する。				
第 8 回	呼吸・循環・代謝・免疫系の発達 (教科書 p. 79-90) ・呼吸器・循環器系の発達に伴う変化を理解する。 ・基礎代謝の発達に伴う変化とそれに影響する要因を理解する。 ・免疫系の発達について理解する。				
第 9 回	感覚・認知系の発達 (1) 感覚と感覚情報の発達 (教科書 p. 91-102) ・感覚（視覚、聴覚、前庭感覚、固有受容感覚）の構造と発達、役割を理解する。 ・触覚、味覚、嗅覚の概要を理解する。				
第10回	感覚・認知系の発達 (2) 感覚統合と認知機能の発達 (教科書 p. 103-114) ・感覚、知覚、認知の発達と感覚統合について理解する。 ・認知機能と認知症の概要を理解する。				
第11回	心理・情緒・社会性の発達 (1) 新生児期から乳児期の発達 (教科書 p. 115-124) ・新生児期～乳児期の心理・情緒・社会性の発達過程と発達課題について理解する。 ・乳児期の愛着形成の重要性を理解する。				
第12回	心理・情緒・社会性の発達 (2) 幼児期から老年期の発達 (教科書 p. 125-134) ・幼児期～老年期の心理・情緒・社会性の発達過程と発達課題について理解する。				
第13回	言語発達と文字の獲得 (教科書 p. 135-144) ・言語発達にかかわる条件と言語発達の段階を理解する。 ・前言語期におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 ・読み書き能力の獲得過程を理解する。				
第14回	人間発達学における社会的課題 (教科書 p. 145-148) ・子どもと若者を取り巻く社会状況を知り、多様な社会的課題について理解する。 ・多様な社会的課題の定義と現状、対策について理解する。				
第15回	発達評価と発達支援の実践 (教科書 p. 159-168) ・発達検査の種類と主な発達検査の特徴を理解する。 ・胎児期～老年期の発達学的課題と発達支援について理解する。				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	神経内科学
代 表 講 師	池 田 耕 治 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	脳・脊髄・末梢神経・筋疾患を対象とし、診断・治療・リハビリを統合的に学ぶ分野である。本講義では、臨床現場で重要視される神経疾患に焦点を当て、症例を基にストーリー形式で学習することで、以下の要素を強化する。 ・疾患の病態・診断・治療戦略の理解 ・臨床推論のプロセス ・患者の心理的・社会的側面の考察 ・最新医療技術と今後の神経内科の展望				
到 達 目 標	1) 神経疾患の総合的理解と診断能力の向上：病態を理解し、神経診察や画像診断を含む適切な評価法を習得する。 2) 臨床推論力と治療戦略の構築：診断・治療方針を検討し、薬物療法・リハビリ・手術適応の優先順位を論理的に説明できる。 3) 最新医療技術と未来の神経科学の探求：AI・ロボティクス・ウェアラブルデバイスなどの最新技術の活用を学び思考する。 4) 患者中心の医療の実践：患者の心理的・社会的背景を考慮し、疾患だけでなく「人」を診る視点を養い、共感力を高める。				
成績評価の方法と基準	「理解 × 表現 × 構造化」神経内科学を語れる身体になるための評価 1. 課題レポート (30%) 毎回のテーマ毎に課題を設定し、レポートとして「熊リハ Moodle」に提出する。(プレテストの予習) 2. プレ及びポストテスト (40%) 毎回の講義内容を確認する小テスト (10 問)。知識の定着を確認する。 3. リフレクション・ジャーナル (30%) 毎回の講義後に理解した内容等を「振り返る」時間を持ち、自己確認する。 ◆本科目では、単なる知識の習得ではなく、生理学の知識をもとに理由づけて説明し、判断できる力を評価する。				
テキスト・教材等	授業ごとに資料 (講義資料)、授業中のワーク用 (ワークシート) を配布します。 ◆資料は基本的に「熊リハ Moodle」にて配布します。必要なら印刷して持参してください。				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	「突然の片麻痺、救急搬送の先で」主人公：男性 A (55 歳・会社員) 朝、突然片側の手足が動かなくなり、言葉もうまく出ない。救急車で搬送され、脳梗塞と診断				池田耕治
第 2 回	「記憶が薄れる日々、家族が気づいた異変」主人公：男性 (70 歳・元公務員) 数年前から「物忘れが増えた」と家族に指摘されていた。「アルツハイマー型認知症」と診断される。				〃
第 3 回	「事故の衝撃、その後に待っていたのは…」主人公：男性 (45 歳・タクシードライバー) 交通事故で頭を強く打ち、一時意識不明となる。数日後に目を覚ましたが、記憶が曖昧で、頭痛や嘔吐が続いていた。				〃
第 4 回	「止まらない震え、動き出せない体」主人公：男性 (65 歳・元教師) 手の震えが気になり始め、最近では歩くのもぎこちない。診断は「パーキンソン病」。				〃
第 5 回	「体が動かない、動けない…私はどうなる？」主人公：女性 (40 歳・主婦) 足に力が入らず、食事のむせ込みも増えた。精査の結果、「ALS」と診断される。				〃
第 6 回	「バランスが取れない、ふらつく足元」主人公：女性 (55 歳・会社員) 最近、歩行時にふらつくことが増え、転倒しそうになることが増えた。「小脳変性症 (多系統萎縮症)」と診断される。				〃
第 7 回	「突然の視界の異変、足に力が入らない」主人公：男性 (28 歳・プログラマー) 朝起きると視界がかすみ、数日後には歩行困難に。MRI で「多発性硬化症」と診断される。				〃
第 8 回	「風邪かな…歩けない、筋力が急に低下していく恐怖」				〃
第 9 回	「指が動かない、仕事が続けられない不安」主人公：女性 (35 歳・プロピアニスト) 演奏中に指が動かしにくくなり、徐々に筋力が低下。病院で「筋ジストロフィー」と診断される。				〃
第10回	「息苦しさ、体が動かない…終わりのない疲労感」主人公：女性 (28 歳・フリーランスデザイナー) 疲れが取れず、最近では呼吸が苦しく感じるが増えた。診断は「重症筋無力症」。				〃
第11回	Special Lecture：神経リハビリテーションの未来 (2030 年予想)				〃

回 数	授 業 内 容	担当講師
第12回	「幼児期に筋力低下…進行性の難病」 5 歳ころに転ぶことが多くなり、病院を受診した。 診断は「デュシェンヌ型筋ジストロフィー」 ・デュシェンヌ型筋ジストロフィー（筋力低下、関節可動域障害、進行性）	高嶋美和
第13回	「生まれつき、思春期、大人になっておこる筋力低下」 ・その他の筋ジストロフィー（筋力低下、関節可動域障害、進行性）	〃
第14回	「生まれつきの脊髄の障害」 1 ・二分脊椎（脊髄の障害：運動障害、感覚障害、自律神経障害）	〃
第15回	「生まれつきの脊髄の障害」 2 ・二分脊椎（脊髄の障害：運動障害、感覚障害、自律神経障害）	〃

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	精神医学
代 表 講 師	矢 形 あゆみ（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	精神障害とは何かという基本的な考え方から学び、精神機能の障害や精神症状、診断・評価の基準について理解する。また、統合失調症など代表的な精神疾患を取り上げ、講義や国家試験問題への取り組みを通して、精神医学の基礎的理解を深める。				
到 達 目 標	1. 精神障害および精神医学の基本的な考え方を理解できる。 2. 精神機能の障害や主な精神症状、診断・評価の基礎を理解できる。 3. 代表的な精神疾患について理解し、国家試験問題を通して知識を整理できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（60%）、小テスト（40%）				
テキスト・教材等	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』、『こころの健康がみえる』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	精神障害とは・精神障害の分類				川口航平
第 2 回	精神機能の障害・症状				〃
第 3 回	診断と評価				〃
第 4 回	統合失調症				〃
第 5 回	気分症（気分障害）				〃
第 6 回	不安症・強迫症・ストレス関連症（神経症性障害・ストレス関連障害など）				〃
第 7 回	摂食症・睡眠・覚醒障害など（生理的要因に関連する行動症候群）				〃
第 8 回	パーソナリティ症（パーソナリティ障害）				矢形あゆみ
第 9 回	物質使用症（精神作用物質使用による精神・行動の障害）				〃
第10回	身体疾患に起因する精神症状（症状性精神障害）				〃
第11回	脳器質性疾患に関連する精神症状・認知症（脳器質性精神障害、認知症）				〃
第12回	神経発達症（発達障害）				〃
第13回	てんかん				〃
第14回	精神科治療・リハビリテーション				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨床心理学
代 表 講 師	川 口 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	本講義では、臨床心理学の歴史的発展と主要理論を体系的に理解し、「心理療法」および「心理アセスメント」の基本的な考え方を学ぶことで、自己理解と他者理解の基盤を形成するとともに、理学療法士・作業療法士国家試験で問われる臨床心理学領域の内容に対応できる力を身につけることを目標とする。				
到 達 目 標	- 臨床心理学の歴史的発展を体系的に理解する。 - 臨床心理学の主要理論と心理療法の特徴・適用場面を理解し、国家試験問題で選択できるレベルにする。 - 代表的な心理検査を実際に体験し、結果の解釈と結びつけて考察できるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (70%)、レポート (30%)				
テキスト・教材等	『リハベーシック 心理学・臨床心理学』、『こころの健康がみえる』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	オリエンテーション 臨床心理学とは：臨床心理学の定義・歴史・実践領域				
第 2 回	心の問題：現代社会における心の問題の特徴				
第 3 回	臨床心理学の主要理論：精神分析理論 ① 心の構造・防衛機制				
第 4 回	臨床心理学の主要理論：精神分析理論 ② 精神分析的な心理療法				
第 5 回	臨床心理学の主要理論：行動主義心理学 ① 行動主義の考え方・行動療法				
第 6 回	臨床心理学の主要理論：行動主義心理学 ② 認知行動療法				
第 7 回	臨床心理学の主要理論：人間性心理学 欲求階層説 (マズロー)・来談者中心療法 (ロジャーズ)				
第 8 回	その他の理論・心理療法：ゲシュタルト心理学、家族療法、森田療法 他				
第 9 回	まとめ：国家試験問題				
第10回	援助職としての支持的なコミュニケーション				
第11回	援助職としての支持的なコミュニケーション 応答練習				
第12回	心理アセスメント：アセスメントの目的と方法・心理検査の種類				
第13回	心理アセスメント：心理検査による自己理解：質問紙法・投影法 (実習)				
第14回	心理アセスメント：心理検査による自己理解：結果のまとめと考察				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	リハビリテーション医学概論
代 表 講 師	坂 崎 浩 一（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	リハビリテーションの概要について理解を深めると共に、リハビリテーション医学にかかわる理学療法士として必要な基礎知識、評価の考え方、代表的疾患・外傷の理解とそれぞれのリハビリテーションのあり方について学ぶ。毎回の授業は、予習としての事前課題、講義、復習としての課題確認シートとノート提出をもって進める。				
到 達 目 標	・リハビリテーション医学の理念と障害について理解し、説明することができる。 ・リハビリテーション医学に関する基礎学について理解し、説明することができる。 ・リハビリテーション医学における評価とその対象となる疾患の概要について、理解し説明することができる。				
成績評価の方法と基準	中間試験（4 割）、定期試験（5 割）、ノート提出状況（1 割）				
テキスト・教材等	『標準リハビリテーション医学』、『基礎運動学』、配布資料、事前学習課題				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	・リハビリテーションの理念と分類 - リハビリテーション理念について理解する。 - 医学的リハビリテーションについて理解する。				
第 2 回	・リハビリテーションの分類 - 教育的、職業的、社会的リハビリテーションについて理解する。 ・障害のとらえ方 - 国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）について理解する。				
第 3 回	・障害の受容 - 障害の受容プロセスについて理解する。 ・リハビリテーションにおける基礎学（運動生理学領域） - 筋線維の Type、筋収縮とエネルギー源について理解する。				
第 4 回	・リハビリテーションにおける基礎学（運動学領域） - 筋収縮の様式（等尺性収縮・等張性収縮）、四肢の運動、姿勢について理解し表現できるようになる。				
第 5 回	・中間試験① ・リハビリテーションにおける障害学（運動器障害） 筋、骨、関節の損傷、ロコモティブシンドローム、サルコペニアについて理解する。				
第 6 回	・リハビリテーションにおける障害学（神経系障害） - 中枢神経系の働きと中枢神経障害の概要について理解する。				
第 7 回	・リハビリテーションにおける障害学（神経系障害） - 末梢神経系の働きと末梢神経障害の概要について理解する。				
第 8 回	・リハビリテーションにおける障害学（廃用症候群） - 廃用症候群の基礎（症状等）について理解する。				
第 9 回	・中間試験② ・リハビリテーションにおける基本的評価の理解 - 関節可動域測定（ゴニオメーターの使い方・基本軸、移動軸）について理解する。				
第10回	・リハビリテーションにおける基本的評価の理解 - 上下肢の徒手筋力検査の概要についてについて理解する。				
第11回	・リハビリテーションにおける基本的評価の理解 - バランス検査、感覚検査、認知症の検査の概要を理解する。				
第12回	・評価における基本事項の理解 - 意識障害（JCS）、ADL 評価の概要について理解する。				
第13回	・中間試験③ ・代表的疾患の理解 - 脳血管障害の病態像とリハビリテーションの流れについて理解する。				
第14回	・代表的疾患の理解 - 脊髄損傷の病態像とリハビリテーションの流れについて理解する。				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	社会福祉学
代 表 講 師	井 上 ゆかり（所属：熊本学園大学 水俣学研究センター）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：9 回（18 時間）
授 業 概 要	社会福祉とは、社会的・生活的困難を抱える人が幸福に生きる権利をその人とともに作り出すことをいう。人間は人生の中で様々な問題を抱えて生きている。そうした 1 人の人間の生存を支えるには、その人らしい生活を確保し高めることが求められる。本授業では、様々な困難を抱えた人の主体性・人格的価値を尊重し、ウェルビーイングを高めること（enhance wellbeing）を「社会」の仕組みとして確保しなければならないことを学ぶ。				
到 達 目 標	社会福祉の基礎となる内容を理解し、生活の中にある課題を捉える視点を持って、社会の中の様々な課題を見つめ、援助者としてどのような方法や課題解決の営みがあるかを理解する力を身につける。特に社会福祉の対象となりやすい障害者・高齢者・生活困窮者などがなぜ対象となりやすいのかを理解する。				
成績評価の方法と基準	授業中のレポート：20%、定期試験：80%				
テキスト・教材等	その都度、資料教材プリントを配布				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	障害者の人権と障害者差別解消法				
第 2 回	障害者への人権侵害―旧優生保護法と私宅監護				
第 3 回	社会保障制度の事始め―年金保険制度				
第 4 回	低所得者と公的扶助―社会的排除と社会福祉の課題				
第 5 回	介護保険政策と社会的課題				
第 6 回	雇用保険と労災保険そして三池炭じん爆発				
第 7 回	地域社会から社会福祉へのアプローチ（1）：災害関連死				
第 8 回	地域社会から社会福祉へのアプローチ（2）：水俣病				
第 9 回	試 験				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	基礎理学療法学	科目名	理学療法概論
代 表 講 師	池 田 幸 広 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前・後期：30 回 (60 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として病院に勤務していた教員が、患者の評価、治療、生活支援等の経験を活かし、理学療法の基本事項について講義するとともに、対象となる代表的疾患・外傷に対する理学療法の展開について解説する。				
授 業 概 要	前期は、理学療法（士）の法的位置づけ、対象となる主な疾患や外傷、運動療法・物理療法の概要、チーム医療について学ぶ。毎回の授業は、予習としての事前課題、講義、復習としての課題確認シートとノート提出をもって進める。 後期は、代表的疾患としての中樞神経疾患・整形外科疾患・呼吸循環系疾患・高齢者及び地域における理学療法の展開について学ぶ。				
到 達 目 標	・理学療法概念・法的位置付け・対象・方法について説明できる。 ・理学療法の主たる対象及び地域で展開される基本的理学療法について説明できる。				
成績評価の方法と基準	前期：中間試験（30％）、課題ノート提出状況（10％）、前期試験（60％） 後期：後期試験（100％）（担当講師の授業回数按分）				
テキスト・教材等	『PT・OT ビジュアルテキスト 理学療法概論』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	理学療法士を目指す学生に求められること				池田幸広
第 2 回	理学療法、リハビリテーションとハビリテーションについて 理学療法の定義を理解する。 リハビリテーションとハビリテーションの定義を理解する。				〃
第 3 回	関係する法律（理学療法士法及び作業療法士法）について理解する。 理学療法の定義について理解する 理学療法士の免許について理解する 守秘義務について理解する				〃
第 4 回	職域について 理学療法士の職域を把握する。 医療保険分野の急性期、回復期・維持期のイメージができる。				〃
第 5 回	労働対価、職能団体と協働職種について 理学療法士の労働対価を把握する。 理学療法士の組織及び協働職種を把握する。				〃
第 6 回	卒前教育と研究について 養成施設（専門学校、大学等）での卒前教育について学ぶ。 研究の必要性を理解する。				〃
第 7 回	世界の理学療法について アメリカや欧米の現状を把握し、本邦の現状を再確認する。				〃
第 8 回	日本の理学療法の課題について 現状の法律や診療報酬制度の問題点から現状の課題を把握する。 これから理学療法士の職域拡大を考える				〃
第 9 回	疾病と障害の分類について ICIDH：機能障害、能力低下、社会的不利を説明できる。				〃
第10回	疾病と障害の分類について ICF の構成要素について学ぶ。 肯定的側面と否定的側面の関係を把握する。				〃
第11回	理学療法の実際 評価について 実技：代表的な評価を体験する。				〃
第12回	理学療法の実際 治療について 実技：代表的な治療（運動療法・物理療法）を体験する。				〃
第13回	チーム医療 関連職種の業務内容について理解する。				〃
第14回	チーム医療 関連職種の業務内容について理解する。				〃
第15回	試 験				

回 数	授 業 内 容	担当講師
第16回	・ 中枢神経疾患に対する理学療法 脳卒中の理学療法の考え方とその展開の仕方の理解する（病態像）。	池田幸広
第17回	・ 中枢神経疾患に対する理学療法 脳卒中の理学療法の考え方とその展開の仕方の理解する（評価）	〃
第18回	・ 中枢神経疾患に対する理学療法 脳卒中の理学療法の考え方とその展開の仕方の理解する（運動療法、ADL 指導等）。	〃
第19回	・ 整形外科疾患に対する理学療法 骨関節を中心とした運動器について理解する	福島芳子
第20回	・ 整形外科疾患に対する理学療法 整形外科的治療法について理解する（装具療法、保存療法、観血的治療法）	〃
第21回	・ 整形外科疾患に対する理学療法 骨折及び人工関節と運動療法および禁忌について理解する	〃
第22回	・ 小児領域の疾患に対する理学療法 人生早期におこる運動障害が発達全般に及ぼす影響と理学療法の特長性について理解する。	高嶋美和
第23回	・ 小児領域の疾患に対する理学療法 脳性まひを代表とする小児疾患（中枢神経疾患、遺伝性疾患）に対する理学療法支援の考え方を理解する。	〃
第24回	・ 呼吸器疾患に対する理学療法 呼吸器の解剖・生理について理解する。	池田幸広
第25回	・ 呼吸器疾患に対する理学療法 拘束性・閉塞性換気障害等、呼吸器疾患に対する理学療法の考え方とその展開の仕方を理解する。	〃
第26回	・ 循環器疾患に対する理学療法 循環器の解剖・生理について理解する。	〃
第27回	・ 循環器疾患に対する理学療法 心筋梗塞等、虚血性心疾患に対する理学療法の考え方とその展開の仕方を理解する。	〃
第28回	・ 高齢者に対する理学療法（医学的モデル） 高齢者にみられる加齢変化および代表的な老年症候群（フレイル、サルコペニア、認知症など）を医学的視点から理解し、その身体機能への影響を説明できる。	坂崎浩一
第29回	・ 高齢者に対する理学療法（生活モデル） 生活・参加の視点から高齢者を理解し、ICF に基づく理学療法士の役割を説明できる。	〃
第30回	試 験	

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	基礎理学療法学	科目名	理学療法セミナー I
代 表 講 師	池 田 耕 治 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：9 回 (18 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士としての臨床経験 (脳卒中・整形外科・内部障害リハビリテーション、心肺リハ、慢性疼痛、歩行分析、臨床推論、チーム医療、EBPT、研究活動、AI・DX 活用など) を基盤に、授業内容を構成している。 授業では、実際の臨床で必要となる 医学用語の運用、神経・循環・代謝の統合理解、評価技術 (MMT・ROM・痛み・歩行分析)、臨床推論、ケースプレゼンテーション、EBPT、未来の理学療法 を扱い、学生が現場で使える知識と考え方を身につけられるようにしている。				
授 業 概 要	本授業は、1 年次学生が 理学療法士としての基礎的な言語・知識・評価・思考・表現を身につけることを目的とした授業である。 第 1 部では、医療専門職としての言語運用、神経・循環・代謝などの基礎生理の臨床応用を学ぶ。 第 2 部では、筋力・関節可動域・痛み・歩行などの評価技術と臨床推論を扱い、ケースを通して考える力を育てる。 第 3 部では、EBPT、研究の基礎、AI・DX など未来の理学療法を見据えた内容を扱い、学生が臨床と未来をつなぐ視点を獲得することを目指す。				
到 達 目 標	第 1 部：医療専門職として適切な言語 (医学用語・医学英語) を使用できる。 神経・循環・呼吸・代謝などの基礎生理を臨床場面に結びつけて説明できる。 第 2 部：MMT・ROM・痛み・歩行などの基本的な評価方法を理解し、実施できる。 臨床推論の基礎を理解し、ケースをもとに評価とアプローチを組み立てられる。 ケースプレゼンテーションを通して、論理的かつ簡潔に情報をまとめて伝えられる。 第 3 部：EBPT の考え方を理解し、臨床研究の基礎的な読み方・考え方を身につける。 AI・DX など未来の理学療法に関する基礎的な理解を持ち、自らの学びに活かせる。				
成績評価の方法と基準	「理解 × 表現 × 構造化」学習内容を語れる身体になるための評価 1. レポート (30%) 毎回のテーマ毎に課題を設定し、レポートとして「熊リハ Moodle」に提出する。(プレテストの予習) 2. プレ及びポストテスト (40%) 毎回の講義内容を確認する小テスト (10 問)。知識の定着を確認する。 3. リフレクション・ジャーナル (30%) 毎回の講義後に理解した内容等を「振り返る」時間を持ち、自己確認する。 ◆本科目では、単なる知識の習得ではなく、生理学の知識をもとに理由づけて説明し、判断できる力を評価する。(臨床推論)				
テキスト・教材等	授業ごとに資料 (講義資料)、授業中のワーク用 (ワークシート) を配布します。 ◆資料は基本的に「熊リハ Moodle」にて配布します。必要なら印刷して持参してください。				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	第 1 部：基礎知識の応用 (1～4 回) 1) 医療専門職としての言語の使い方 ①医学用語の復習+実際の臨床現場で使う表現、②医療者と患者の対話の違い、③医学英語 (リハビリ関連の英語表現) 2) 神経系を統合的に理解する (解剖・生理・運動の結びつき) ①中枢・末梢神経の構造と機能の復習+臨床適用 (例：脳卒中患者の運動障害における神経解剖生理) 3) 循環・呼吸を統合的に理解する (解剖・生理・運動の結びつき) ①運動負荷と血圧・心拍数の変化の理解 (例：心肺リハビリテーションの視点と循環・呼吸の重要性) 4) 消化・代謝・栄養の視点からリハビリを考える ①基礎代謝とリハビリの影響 (例：高齢者や糖尿病患者におけるリハビリと栄養の関係)				
第 2 回					
第 3 回					
第 4 回					
第 5 回	第 2 部：評価とアセスメント (5～7 回) 5) 運動機能評価と解剖学・生理学の活用+疼痛のメカニズムとリハビリテーション ①筋力評価・関節可動域評価 (MMT、ROM)、②痛みの神経生理学、慢性疼痛に対する理学療法のアプローチ 6) 歩行分析と運動学的アプローチ ①歩行周期の分析、異常歩行のメカニズムとリハビリ介入 7) 臨床推論 (Clinical Reasoning) の基礎～応用 ①ケースを元に「どのように評価し、どのようなアプローチを考えるか」をディスカッション、②ケースプレゼンテーション				
第 6 回					
第 7 回					
第 8 回	第 3 部：実践とプレゼンテーション (8～9 回) 8) エビデンスベースの理学療法 (EBPT) ①最新の理学療法研究を読む、②文献検索とデータの活用 9) リハビリテーションにおける未来の課題 ①DX (デジタルトランスフォーメーション) と AI の活用、②未来の理学療法を考えるワークショップ				
第 9 回					

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	基礎理学療法学	科目名	臨床運動学 I
代 表 講 師	明 瀬 敬 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	人体における骨・関節・筋・神経などの基本的構造や機能について、正常動作と臨床的な異常動作の違いを実技、動画視聴等を交えて進める。各授業毎に確認テストを実施する。				
到 達 目 標	・運動、動作の成り立ちを理解し、説明することができる。 ・運動や動作の中から異常な要素を観察することができる。				
成績評価の方法と基準	形成的評価 (100%)				
テキスト・教材等	『15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト臨床運動学』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	姿勢・動作を理解するための運動力学 について理解することができる。				
第 2 回					
第 3 回	運動力学の基礎 (姿勢の生体力学) について理解することができる。				
第 4 回					
第 5 回	運動力学の基礎 (動作の生体力学) について理解することができる。				
第 6 回					
第 7 回	姿勢と保持について理解することができる。				
第 8 回					
第 9 回	正常動作 (起き上がり動作、寝返り動作と床からの立ち上がり動作) について理解することができる。				
第10回					
第11回	正常動作 (椅子からの立ち上がり動作、歩行) について理解することができる。				
第12回					
第13回	高齢者の姿勢・動作について理解することができる。				
第14回					
第15回	脳血管障害後片麻痺の姿勢の特徴と分析について理解することができる。				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	理学療法評価学	科目名	理学療法評価学 I
代 表 講 師	高 田 理恵子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義及び実技	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、理学療法の処方から理学療法終了までの流れに関する基礎知識、観察・情報収集・面接に対する基本知識、形態測定、関節可動域測定に対する基礎知識について講義し、指導する。				
授 業 概 要	理学療法評価に必要な知識と技法を身に着けるため、評価の目的を項目ごとに理解を深め、形態測定や関節可動域測定で使用するメジャー・角度計の取り扱いについて、実技を中心に学ぶ。				
到 達 目 標	・理学療法評価における基本知識と、観察・情報収集・面接に対する基本知識と方法を習得する。 ・形態測定と関節可動域測定の検査・測定技術を習得する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（70％）・実技試験（30％）				
テキスト・教材等	『標準理学療法専門 理学療法評価学』、配付資料、骨標本、角度計、メジャーなど				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	・理学療法評価・評価の意義と構成要素、治療までのプロセスを理解する。 ・評価に対する心構えや基本的姿勢を理解する。				
第 2 回	・観察や面接の目的、方法、情報収集しなければならない内容を理解する。				
第 3 回	・姿勢評価の目的と方法を理解し、実施することができる。 ・上肢の周径・肢長の目的、方法、手順を理解し、実施することができる。				
第 4 回	・姿勢評価の目的と方法を理解し、実施することができる。 ・下肢の周径・肢長の目的、方法、手順を理解し、実施することができる。				
第 5 回	・形態測定の実技試				
第 6 回	・関節可動域の目的、測定方法と手順、注意事項、記録方法などを理解する。 ・関節可動域制限を起こす因子について理解する。				
第 7 回	・肩甲帯・肩関節の構造及び運動学的特徴、測定方法、手順、注意点を理解し、模倣することができる。				
第 8 回	・肘関節・前腕・手関節の構造及び運動学的特徴、測定方法、手順、注意点を理解し、模倣することができる。				
第 9 回	・上肢の関節可動域について実技試験				
第10回	・股関節の構造及び運動学的特徴、測定方法、手順、注意点を理解し、模倣することができる。				
第11回	・膝・足関節の構造及び運動学的特徴、測定方法、手順、注意点を理解し、模倣することができる。				
第12回	・下肢の関節可動域について実技試験				
第13回	・体幹及び手指、足趾の関節可動域について測定方法、手順、注意点を理解し、模倣することができる。				
第14回	・SOAP について理解する。				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	基礎運動療法学
代 表 講 師	坂 崎 浩 一（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として病院に勤務していた教員が、患者の評価、治療、生活支援等の経験を活かし、運動療法の適応と禁忌、身体運動の基礎知識を踏まえ、関節可動域運動、筋力増強運動、持久力運動等の基本的運動療法や起居動作、杖歩行等について学習を進める。				
授 業 概 要	関節可動域運動、筋力・持久力運動、協調性運動などの基本的運動療法の理論と手技を学ぶ。毎回の授業は、予習としての事前課題、講義及び実技、復習としての課題確認シートとノート提出をもって進める。				
到 達 目 標	・運動療法の目的と禁忌について理解し説明できる。 ・肢位・運動の方向・筋の収縮と弛緩等を理解し、説明できる。 ・基本的運動療法に関して、その理論を理解し、学生対象に手技を実施することができる。 ・代表的運動療法機器について、その目的と使用方法について理解し、使用することができる。				
成績評価の方法と基準	確認小テスト（実技試験含む）（5 割）、課題ノート提出状況（1 割）、筆記試験（4 割）				
テキスト・教材等	『理学療法学テキストⅢ 運動療法Ⅰ』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	・運動療法の歴史について理解する。 ・運動療法の目的と禁忌について理解する。 ・血圧、脈拍の測定方法について理解し、説明できる。				
第 2 回	・基本的運動（運動の分類） 姿勢（背臥位、立位等）と運動（屈曲－伸展、外転－内転、外旋－内旋 等）について説明できる。 - 他動運動、自動介助運動、自動運動、抵抗運動について説明できる。				
第 3 回	・基本的運動（運動の分類） ・等尺性収縮、等張性収縮（遠心性収縮・求心性収縮）、安静時弛緩、収縮時弛緩について説明できる。				
第 4 回	・確認小テスト① ・関節可動域運動 関節の基本構造について理解する。				
第 5 回	・関節可動域運動の実際（下肢）（実技） 下肢の持ち方、体の使い方に留意しながら、下肢の関節可動域運動を実施できる。				
第 6 回	・関節可動域運動の実際（下肢）（実技） トーマステスト、尻上がり現象を理解し、短縮筋に対する伸張運動を実施できる。				
第 7 回	・関節可動域運動の実際（上肢）（実技） 肩甲上腕リズムを理解すると共に、上肢の持ち方、体の使い方に留意しながら、肩・肘の関節可動域運動を実施できる。 - テノデーシスアクションを理解するとともに、手・手指の関節可動域運動を実施できる。				
第 8 回	・確認小テスト（実技含む）② ・筋力増強運動 筋収縮のメカニズム、筋線維の種類と特性（速筋・遅筋）、筋力増強の過程、Overload・特異性・可逆性の原則を説明できる。				
第 9 回	・筋力増強運動（実技） 低周波装置、バイオフィードバック、懸垂装置、等速運動機器及び徒手にて、筋力レベルに応じた筋力増強運動を実施できる。				
第10回	・筋力増強運動（実技） 筋の収縮形態の違いによる筋力増強運動について代表的な筋力増強運動を理解する。 - マッスルセッティング、SLR を実施できる。				
第11回	・確認小テスト③ ・持久力運動 持久力に必要な事項（最大酸素摂取量、無酸素性閾値、運動強度等）について理解するとともに、適切な運動強度を算出することができる。				
第12回	・協調運動 協調性運動障害の原因、運動の原則について理解すると共に、フレンケル体操、弾性緊迫帯、重量負荷、PNF の概要について説明することができる。				
第13回	・人の動きと姿勢（実技） ・重心と支持基底面の関係を理解し、寝返り、起き上がり、立ち上がり、トランスファーの介助を実施できる。				
第14回	・杖歩行（実技） 松葉杖歩行（小振り・大振り・4 点・3 点・2 点 歩行）を実施できる。 杖歩行（常時 2 点支持・2 点 1 点交互支持 歩行）を実施できる。				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	神経障害理学療法学 I
代 表 講 師	池 田 耕 治 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	臨床現場での経験と直結した実践的な学問であり、授業内容は理論だけでなく、実際の臨床ケースに基づいた学習を重視する。本授業では、脳卒中片麻痺、運動失調症、末梢神経損傷 に焦点を当て、それぞれの疾患ごとに患者のリハビリプロセスを「物語形式」で学習することで、実務との関連性を強化する。				
授 業 概 要	本授業は、「運動療法学」の応用的な分野を扱い、脳卒中片麻痺、運動失調症、末梢神経損傷 を中心に、実際のリハビリテーションの流れを理解し、評価・治療計画を立案できる能力を養う。 講義では、実際の臨床症例に基づいた物語形式のアプローチ を採用し、患者の回復プロセスを追いながら、各疾患の治療法を学ぶ。				
到 達 目 標	(1) 総合的な知識の習得：運動療法の基本原理を理解し、神経疾患の病態やメカニズムを体系的に説明できるようになる。 各疾患の評価法、治療戦略、最新のリハビリ技術を学び、臨床で適切に応用できる知識を習得する。 (2) 臨床応用力の向上：患者の状態に応じた評価を行い、運動療法プログラムの立案から介入、効果判定までの一連のプロセスを遂行する能力を養う。さらに、QOL 向上を目的とした治療戦略や心理的側面にも配慮する。 (3) 問題解決力と臨床判断力の育成：ケーススタディを通じて臨床推論を行い、運動療法の選択と応用ができる問題解決能力を身につける。多様な患者の状況に柔軟に対応し、計画を構築・修正できる実践的な判断力を養う。				
成績評価の方法と基準	「理解 × 表現 × 構造化」学習内容を語れる身体になるための評価 1. 課題レポート (30%) 毎回のテーマ毎に課題を設定し、レポートとして「熊リハ Moodle」に提出する。(プレテストの予習) 2. プレ及びポストテスト (40%) 毎回の講義内容を確認する小テスト (10 問)。知識の定着を確認する。 3. リフレクション・ジャーナル (30%) 毎回の講義後に理解した内容等を「振り返る」時間を持ち、自己確認する。 ◆本科目では、単なる知識の習得ではなく、学習した知識をもとに理由づけて説明し、判断できる力を評価する。(臨床推論)				
テキスト・教材等	テキスト：『リハビリテーションのための神経内科学の学び方 (はじめての講義)』『病気がみえる (vol.7) 脳・神経』 授業ごとに資料 (講義資料)、授業中のワーク用 (ワークシート) を配布します。 ◆資料は基本的に「熊リハ Moodle」にて配布します。必要なら印刷して持参してください。				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	【脳卒中片麻痺】片方の手と足が動かない…ことばがでない…				
第 2 回	第 1 部：発症と診断 ・脳卒中の種類 (出血性・虚血性) とそのメカニズム ・急性期の対応と評価 (バイタルサイン、リスク管理)・治療と初期対応 (t-PA 療法、神経症状)				
第 3 回	第 2 部：最初の挑戦 (寝返り～起上り) ・廃用症候群と運動麻痺 (ICU での長期臥床による筋萎縮、関節拘縮リスク) ・早期離床の重要性 (ベッドポジショニング、ターニング技術、バイタル安定後の座位練習)				
第 4 回	第 3 部：座ること～立ち上がることの難しさ ・体幹の不安定性と筋緊張の調整 (座位保持が困難な患者への段階的アプローチ) ・座位バランス評価 (重心移動の訓練：ボールやチルトテーブルを活用)				
第 5 回	・起立動作の分析と練習 (立位の左右非対称性と重心移動の調整、介助付きでの起立練習：バー使用) 第 4 部：歩行への第一歩				
第 6 回	・急性期から回復期への移行 (異常歩行パターン (dragging foot, circumduction gait) の観察) ・立位保持と荷重のコントロール (麻痺側下肢への荷重訓練：片脚立ち、重心移動)				
第 7 回	【パーキンソン病】ゆっくり始まる異変 ・Hohen-Yahr 分類と初期症状 (事例：筆記時の手の震え、腕を振らない歩行、前傾姿勢、動作緩慢)				
第 8 回	・筋固縮 (鉛管様、歯車様) と動作の遅れ (運動開始の遅れ、運動速度の低下、運動振幅の低下)				
第 9 回	第 1 部：動きたいのに動けない ・姿勢保持とバランス障害 (事例：歩行中に突然止まる freezing of gait) ・バランス評価 (静的：Romberg 試験、動的：Timed Up & Go test、姿勢制御：Pull test、UPDRS 評価)				
第10回	第 2 部：小さくなる歩幅、凍りつく足 ・歩行障害とトレーニング (事例：L 字杖、レーザー杖を使った歩行訓練)				
第11回	・外部刺激を用いた運動誘導 (視覚的キュー、聴覚的キュー、タスク指向型：障害物を越える、階段昇降) 第 3 部：薬物療法と運動療法の併用 ・L-dopa の影響とリハビリのタイミング (事例：オン・オフ現象、ウェアリングオフ) ・薬効のピーク時に運動介入 (ストレッチ、リズム運動、体操、運動イメージ)				

回 数	授 業 内 容
第12回	【運動失調症】揺れる身体と制御できない四肢 ・運動失調のメカニズム（3タイプ：深部感覚性・小脳性・前庭性） ・フィードバック vs. フィードフォワード（鏡を使った訓練：ミラーセラピー） 第1部：バランスを取り戻せるか ・体幹の協調性（事例：広い歩幅での歩行、動作時のふらつき） 第2部：歩くこともままならない ・歩行失調評価（SARA、TUG テスト、BBS）※静的・動的バランス、協調運動、転倒リスクの総合的分析 ・歩行補助具の適用（バランス、歩幅と歩行リズム、転倒リスク、上肢の協調運動、歩行速度調節）
第13回	
第14回	
第15回	

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	日常生活活動学
代 表 講 師	福 島 芳 子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	臨床現場での経験を持つ理学療法士が、日常生活動作の基礎から応用を実技を交えながら講義を行う。				
授 業 概 要	日常生活動作における基本知識と技術を習得し、疾患に応じた日常生活動作の指導と支援ができるようになる。				
到 達 目 標	・基本動作について理解し第 3 者に指導することができる。 ・疾患の特徴を理解し、疾患別の日常動作練習の指導や支援を行うことができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	日常生活活動の定義、範囲、概念、国際生活機能分類を理解し、説明することができる。				
第 2 回	ADL 評価の概要について理解することができる。				
第 3 回	日常生活活動の具体的な評価（Barthel-index）を理解することができる。				
第 4 回	日常生活活動の具体的な評価（Barthel-index）を使用することができる。				
第 5 回	日常生活活動の具体的な評価（FIM）についてグループで調べてまとめることができる。				
第 6 回	日常生活活動の具体的な評価（FIM）についてグループで調べてまとめることができる。				
第 7 回	日常生活活動の具体的な評価（FIM）についてグループごとに発表することができる。				
第 8 回	移動支援器具の基礎知識と適応を理解する。ADL を支援する機器と住環境について理解する。				
第 9 回	臥位から立位までの基本動作を理解し、模倣することができる。				
第10回	床上移動、車いす移動および歩行動作について理解し模倣することができる。				
第11回	移乗動作の目的・手段を理解し模倣することができる。				
第12回	脳卒中片麻痺患者を想定して基本動作や複合動作の指導や支援が行うことができる。 身の回り動作について理解する。				
第13回	骨関節疾患のADL指導（骨折、THA 術後のリスク管理とADL を指導できる）				
第14回	関節リウマチのADL指導（関節保護を理解し、自助具の使用及び適切なADLを指導できる）				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法演習 I
代 表 講 師	池 田 幸 広 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	診療現場での経験を持つ教員が、基礎医学（解剖学・生理学・運動学）を基にした理学療法評価（代表的な検査測定）について実技を踏まえて講義する。				
授 業 概 要	基礎医学（解剖学・生理学・運動学）と理学療法評価とのつながりを学習し、理学療法業務で用いる代表的な検査・測定について講義・演習を行う。				
到 達 目 標	理学療法評価（バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、感覚検査、腱反射・筋緊張検査、脳神経検査）を見学し、講師・上級生の助言を受けながら模倣できる。				
成績評価の方法と基準	単元毎の小テスト 50% 課題レポート 50%				
テキスト・教材等	『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』、配付資料、各担当教員が提示した教科書等を準備すること。 角度計、メジャー、打腱器、筆、その他、各講義で必要な道具				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	総論 基礎知識と技術に立脚した理学療法評価を捉える。 目標：理学療法評価における検査・測定と基礎医学の関係性をイメージできる。				
第 2 回	総論 基礎知識と技術に立脚した理学療法評価を捉える。 目標：実技を通して評価と知識の関係性の解像度を上げる。				
第 3 回	バイタル測定 ・脈拍や血圧などを基礎医学の視点で考えることができる。(解剖学・生理学) ・バイタルチェックの目的を理解する。				
第 4 回					
第 5 回	形態測定 ・体表から、ランドマークを確認することができる。(解剖学・運動学) ・周径、四肢長を計測する目的を理解する。				
第 6 回					
第 7 回	関節可動域測定 ・関節構造と運動との関係性を理解する。(解剖学・運動学) ・関節可動域検査の目的を理解する。 ・基本軸・移動軸の概念を理解する。				
第 8 回					
第 9 回	臨床実習支援システム演習 ・臨床実習場面を想定し、臨床実習支援システムの操作手順を把握する。 目標：臨床実習支援システムに記録・保存することができる。 臨床実習支援システムに記録・保存することができる。				
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	地域理学療法学	科目名	地域理学療法学 I
代 表 講 師	坂 崎 浩 一（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	授業担当者は、脳卒中や運動器疾患を中心とした臨床経験を有する理学療法士であり、地域支援事業への協力や介護認定審査会の審査委員、地域ケア会議助言者研修の企画・運営など、地域における多職種連携の実務経験を積んできた。本講義では、これらの経験をもとに、地域で生活する高齢者・障害者の生活の実際を示しながら、生活期における理学療法士の役割について学生の理解を深める。				
授 業 概 要	本講義は、地域で生活する人々を支える理学療法の基本的な考え方を学ぶことを目的とする。地域理学療法および地域リハビリテーションの概念、地域包括ケアシステムや関連制度を理解するとともに、生活期における対象者の生活課題を捉える視点を養う。また、基礎的な介助・支援を体験的に学び、理学療法士の役割を具体的に理解する。本講義は、1 年次後期における地域理学療法の概論として、地域理学療法実習へつながる基礎的理解の形成を目指す。				
到 達 目 標	・地域理学療法および地域リハビリテーションの基本的な概念を理解し、生活期における理学療法士の役割を説明できる。 ・地域包括ケアシステムや関連制度を踏まえ、対象者の生活課題を捉える視点を身につける。 ・基礎的な介助・支援を体験し、地域理学療法が多職種連携を前提とした実践であることを理解する。				
成績評価の方法と基準	確認小テスト（4 割）、課題ノート提出状況（1 割）、筆記試験（5 割）				
テキスト・教材等	『地域理学療法学』・配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	・地域理学療法および地域リハビリテーションの概念 - 地域理学療法の概念について理解を深める - 地域リハビリテーションの概念について理解を深める				
第 2 回	・地域理学療法の視点（1） - 在宅で生活する高齢者についての課題を抽出することができる。 - 地域における高齢者施策について説明できる。				
第 3 回	・地域理学療法の視点（2） - 生活とライフステージについて説明できる。 - 退院後の生活と課題について説明できる。 - 地域理学療法における生活を捉える視点について理解を深める。				
第 4 回	・確認小テスト（1 回～3 回） ・地域包括ケアシステムの構築 - 人口構造の変化と課題について説明できる。 - 高齢者、障害者を取り巻く社会状況、疾病構造の変化について説明できる。 - 地域包括ケアシステムの背景について説明できる。				
第 5 回	・地域理学療法と制度 - 地域理学療法に関連する制度の概要を説明できる。 - 制度と理学療法士の支援場面の関係を理解できる。				
第 6 回	・地域理学療法の対象と支援方法（1） - 地域理学療法の対象について説明できる。 - 年齢や健康状態からみた対象について説明できる。				
第 7 回	・地域理学療法の対象と支援方法（2） - いわゆる「寝たきり」の状態を体験する。 - 褥瘡の発生機序と予防について説明できる。				
第 8 回	・確認小テスト（4 回～7 回） ・理学療法的支援（1） - 適切な良肢位について実践できる。 - 適切な起居動作の指導・介助について実践できる。				
第 9 回	・理学療法的支援（2） - 適切な移乗動作の指導・介助について実践できる。 - ベッドから車いす、車いすからベッドの移乗動作について実践できる。 - 移乗動作を制限する因子及び転倒リスクについて説明できる。				
第10回	・理学療法的支援（3） - 平地、段差、斜面における車いす操作について実践できる。 - 平地、階段における杖歩行の指導・介助について実践できる。				

回 数	授 業 内 容
第11回	・理学療法的支援（4） 生活期における食事の評価と援助方法について説明することができる。 生活期における排泄の評価と援助方法について説明することができる。
第12回	・確認小テスト（8回～11回 実技テストを含む） ・社会参加と介護予防 社会参加への支援について理解を深める。 フレイル、サルコペニアと介護予防について理解を深める。
第13回	・認知症と地域理学療法 認知症、軽度認知障害の現状と課題について説明することができる。 認知症、軽度認知障害と理学療法士の関わりについて理解を深める。
第14回	・環境整備と地域理学療法 福祉用具の活用方法について理解を深める。 住宅改修について理解を深める。 地域理学療法における多職種連携の考え方について理解を深める
第15回	試 験

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	臨床実習	科目名	見学実習
代 表 講 師	池 田 幸 広 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	実 習	単位数	1	学期・回数	前期：(40 時間)
実務経験内容 及び授業内容 との関連性	理学療法業務の経験を持つ教員及び臨床教育者 (CE;Clinical Educator) が、理学療法業務内容並びに臨床実習施設におけるリハビリテーションまた理学療法部門の位置づけ等を具体的に把握できるように指導する。また、現場で働く CE の業務を実際に見学・経験する。				
授 業 概 要	学内及び臨床実習施設で、リハビリテーション専門職である理学療法士が医療場面で行う業務内容を学ぶ。				
到 達 目 標	早期に、自己の職業となる理学療法士の業務内容とリハビリテーションにおける理学療法部門の位置づけ等を具体的に把握することにより、職業観や勤労観、倫理観を養うこと。 ・働く上でのやりがいや喜び、苦労などを体感し、学内教育に積極的に向かうことの大切さを学ぶ。 ・社会人としての心構えや基本的なマナーを学ぶ。				
成績評価の方法と基準	・ポートフォリオ評価 (50%) ・筆記記述試験 (50%)				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項 他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
1 週間	期間：2026 年 9 月 7 日 (月) ～ 9 月 12 日 (土) (学外実習) 実施方法：介助法等の学内演習後、熊本市内およびその近郊の施設に、1 施設 1 名～3 名の学生で実習をおこなう。 学習内容： 1. 理学療法部門をはじめ、作業療法、言語療法、ケースワーカー部門などのリハビリテーション関連部門の業務内容を把握する。 2. 病院施設全体の機能並びにその中における理学療法部門の位置づけを把握する。 3. 障害がどのようなものかを知り、簡単な介護など、できることがあれば体験する。 4. 多くの患者様やスタッフの方々と接し、自己の資質の向上を図る。				学内講師 及び 臨床実習 指導者

学 科	理学療法学科 1 年次	教育 内容	臨床実習	科目名	地域理学療法実習
代 表 講 師	池 田 幸 広 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	実 習	単位数	1	学期・回数	後期：(40 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役の理学療法士が病院・施設等の臨床現場において、臨床参加型実習にて、地域理学療法の一連の流れについて経験を通して教育を行う。				
授 業 概 要	・実際の現場で1 週間実習しながら、デイケアや訪問リハの流れや制度について学ぶ。 ・地域で生活をしている障害者、高齢者に対しての理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを、実習を通して学ぶ。 ・「暮らしを営む」ということはどういうことかを認識し、理学療法士はどのように関わっていくかを学ぶ。 ・社会的資源をどのように活用しながら在宅生活を営んでいるかを学ぶ。 ・家族を含め、他職種とのつながり、連携の重要性について学ぶ。 ・担当者会議、カンファレンス等への参加を通じ、サポート体制、他職種との連携の重要性について学ぶ。				
到 達 目 標	・介護保険や福祉サービスの制度について理解する。 ・対象者の理学療法ニーズを把握することができ、そこからどのような理学療法サービスを提供していくのかを理解することができる。				
成績評価の方法と基準	・ポートフォリオ評価 (50%) ・経験報告書 (50%)				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項 他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
1 週間	期 間：2027 年 3 月 1 日（月）～ 3 月 6 日（土） 学習内容： ・地域で働く理学療法士の業務内容と役割について ・他職種との連携について ・担当者会議、ケアカンファレンスへの参加 ・在宅生活を支援する資源について ・福祉用具の選定、住宅改修・環境調整等への参加 ・その他、可能な範囲での理学療法体験				学内講師 及び 臨床実習 指導者